

# NewsLetter



No. 01

November 2019

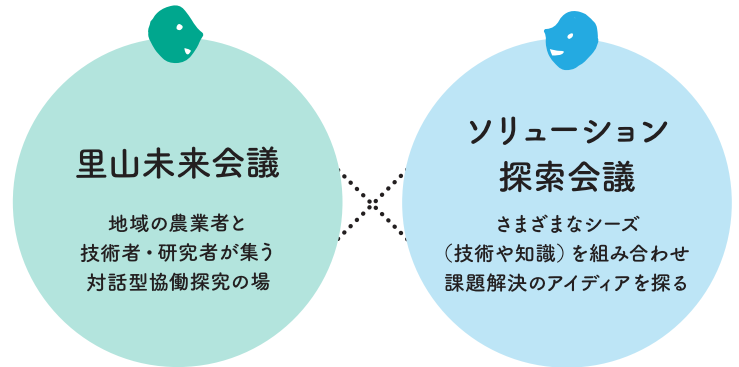
対話型協働探索+科学技術イノベーションで小さな農業の新しい可能性を生み出す  
ニュースレター

佐渡市・新潟大学「生物多様性と農業技術革新が共存するエコロジカル・コミュニティの実装に向けて：里山創生「佐渡モデル」の構築」プロジェクト

## 里山農業の未来デザイン

世界農業遺産の島、  
佐渡の里山の風景や農業文化を  
次世代に繋ぎたい。

このプロジェクトは、佐渡島の小さな農業を支えるために佐渡市と新潟大学がはじめた、生物多様性と農業技術革新が共存する佐渡の里山のмираいのカタチを探る試みです。ふたつの会議で対話を重ねながら、佐渡の進むべき方向を探っていきます。



**今** 年度は、特徴が異なる二つの地域、新穂潟上集落と歌見田（団地型ほ場）において、農業者の皆さんと対話を始めました。技術者・研究者も参加して、地域のニーズを分析しながら、課題解決の方法を探っています。

- 里山未来会議 …………… 課題と向き合う、未来を語る。ざっくばらんな対話の場
- ソリューション探索会議 …… 地域の声をもとに、技術者・研究者が課題解決のアイデアを探る

### 第1回 里山未来会議

#### 新穂潟上集落

谷戸田の多い、  
生物多様性のホットスポット

2019年9月5日(木) 18:30～20:30  
場所 | 潟上集落センター  
参加者 | 36名(うち地域農業者20名)

次の世代に農地を引き継ぐためにも、今から話し合いを始めよう！事前ミーティングでは、そんな強い思いも語られていた潟上集落。多くの農業者が参加し、日頃の農作業を通して感じていること、地域の農業の発展に向けて考えていることなどを共有しました。農作業の省力化、集落のコメのPR、農作業や機械の共同化、さらには、畜産施設が集落内にあることから、畜産業との連携の可能性についても関心が高いようです。



#### 歌見田地域

海に面した台地に棚田が並ぶ、  
団地型ほ場

2019年9月6日(金) 18:30～20:30  
場所 | 歌見公会堂  
参加者 | 29名(うち地域農業者14名)

団地とはいえ歌見田には、さまざまな条件の田んぼがあります。高地や川沿いは両側に山があるため影ができ、日照不足になりやすいのだそう。標高が高ければ水温も低く、未熟米に悩む農家も。畦畔の草刈りは、急斜面であることに加え、石の多い地質のため、極めて困難です。ただし、海に面したほ場からの景観は圧巻。雄大な風景に心奪われます。心奪われます。ところが、来年からは多くの人が耕作を断念する可能性がある、ショッキングな状況が語られました。半農半漁のライフスタイルを生かした、歌見田ならではの農業の発展はいかに！？



アイデア出しでは、円型段ボールの「えんたくん」が大活躍。皆で丸くなって、地域のニーズを出し合いました。



## 第1回 ソリューション探索会議

2019年10月15日(火) 13:00 ~ 17:00

場所 | 新潟大学東京事務所

参加者 | 14名

最新草刈り機の開発や、気象データの活用、コスト・労力削減の農法、生物多様性評価等、様々な観点から、佐渡の小さい農業を支えるアイデアを話し合いました。

### イノベーションのタネ

#### 最新技術のご紹介「リモコン式草刈機」

棚田での草刈りは重労働。重い草刈り機を持っての斜面での草刈りは、転倒などの危険も伴います。これまでにさまざまなメーカーがリモコン式草刈り機を開発しています。40度以上の斜度でも刈れる機械も登場し、機能は飛躍的に強化されています。刈草を粉碎するタイプもあり、集草の手間も改善されているそうです。現在農研機構では、斜度があればあるほど機能を発揮するタイプの機械も開発中だとか！



## 第2回 里山未来会議

### 新穂湯上集落

2019年10月25日(金) 18:30 ~ 20:30

場所 | 湯上集落センター

参加者 | 21名(うち地域農業者12名)

第1回会議で整理された要望の中でもっとも関心が高かったのは「農作業を軽減する多様な工夫を考える」ことでした。また、畜産施設との連携が実現できれば、WCS栽培とたい肥活用を地域全体でうまく回し、地力向上を図れるのでは?との意見も。

ただし効果が不明な点もあり、土壌分析による農地条件の科学的評価も要検討です。



### 歌見田地域

2019年10月24日(木) 18:30 ~ 20:30

場所 | 歌見公会堂

参加者 | 24名(うち地域農業者8名)

前回の会議で放棄地の増加が課題として上がった歌見田。参加者が最も高い関心を示したのが、放棄されるほ場も含めて「農地条件の調査を行う」ことでした。条件のよいほ場を優先的に活用するためにも、耕作者への聞き取りを行い、ほ場の細かな特徴を整理することが重要です。ICTを活用すれば、情報共有もスムーズにできるのでは!?

### 対話のデザイン

#### 巨大ボードで課題・シーズを整理整頓

第2回里山未来会議には、180cmを超える高さの巨大ボードが出現。ボードに課題やシーズを貼り付け、多様な地域課題の全体像捉えながら話し合いが出来ます。すぐに出来ることや5年かけて

出来ること等、時系列ごとに整理をしながらシーズの検討をしました。



## 第2回 ソリューション探索会議

2019年10月26日(土) 9:30 ~ 10:30

場所 | 新潟大学佐渡自然共生科学センター 朱鷺自然再生学研究施設 共同研究室

参加者 | 6名

通信インフラ整備の可能性や、土壌評価の評価技術の導入、たい肥活用のしくみづくり等が議論されました。併せて、佐渡型環境保全農法を担うことの出来る人材の育成や、営農を支援するアプリの開発、温暖化対応も視野に入れた技術開発が必要ではないかとの指摘もなされました。



### 統括プランナーより

近年、人・農地プランの作成など、地域単位で農地の保全を検討していくことが求められています。担い手が減少する中、地域の未来像を描くことは容易ではありませんが、地道な対話によって地域らしい発展の形が見えてくるはず。地域のニーズや課題は様々ですが、それらのつながりを整理しながら、包括的な課題解決の面白いプランを住民の皆さんと技術者と共同で考えていきます。(豊田)



### 編集後記

色々な人を巻き込みながら物凄い勢いで進んでいるこのプロジェクト。これからこのニュースレターでプロジェクトの進捗の際に起こった様々な出来事を紹介していきますね。勢いと、関係者のみなさまの想いが伝われば嬉しいです!(北)

## 問い合わせ先

新潟大学佐渡自然共生科学センター

tel. 0259-22-3885 (担当 豊田・北) e-mail sado.satoyama@gmail.com

本ニュースレターで報告した活動には、下記団体の皆様に参加・協力いただきました。

新潟県佐渡地域振興局、佐渡市棚田協議会、佐渡市地域おこし協力隊、神戸市立工業高等専門学校、農研機構西日本農業研究センター、ウォーターセル株式会社、株式会社アンド、株式会社サンワコン新潟支店、株式会社宍成、NTT東日本、株式会社マネジメントシステム、新穂湯上集落農業者、歌見田農業者ほか

文部科学省「科学技術イノベーションによる地域社会課題解決」助成事業 発行：佐渡市・新潟大学 編集：新潟大学佐渡自然共生科学センター特任助手 北 愛子

